

Canon

SPEEDLITE TRANSMITTER
ST-E3-RT



J

使用説明書

はじめに

キャノンスピードライトトランスミッター ST-E3-RTは、電波通信によるワイヤレス多灯撮影機能を備えたキャノン製スピードライトを、5グループ（15灯）まで制御できるワイヤレスストロボ撮影用の送信機です。EOS-1Dシリーズのカメラと同等の防塵・防滴性能を備えています。

- **カメラ、スピードライトの使用説明書もあわせてお読みください。**

ご使用になる前に、この使用説明書とカメラ、スピードライトの使用説明書をお読みになって理解を深め、操作に慣れた上で正しくお使いください。

カメラとの組み合わせについて

- **EOSデジタルカメラ（Aタイプカメラ）との組み合わせ**

- ・簡単な操作でワイヤレス自動調光撮影を行うことができます。

- **EOSフィルムカメラとの組み合わせ**

- ・E-TTL II/E-TTL自動調光方式のEOSフィルムカメラ（Aタイプカメラ）と組み合わせたときは、簡単な操作でワイヤレス自動調光撮影を行うことができます。
- ・TTL自動調光方式のEOSフィルムカメラとの組み合わせでは、使用できません。

章目次

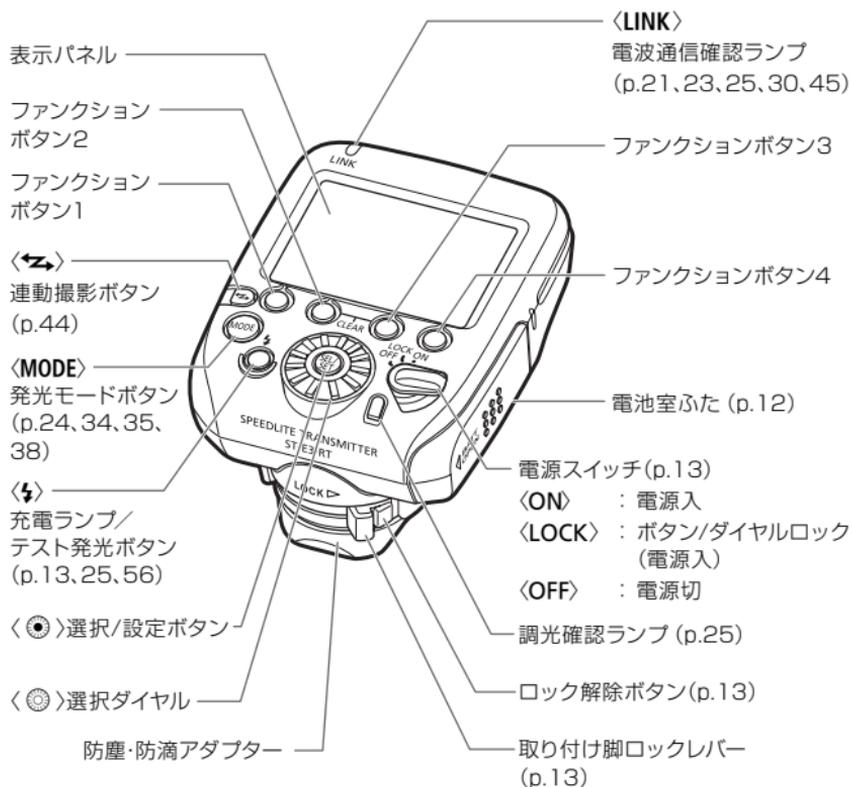
	はじめに	2
1	使用前の準備 ワイヤレスストロボ撮影を行う前の準備	11
2	電波通信ワイヤレスストロボ撮影 電波通信によるワイヤレスストロボ撮影機能	15
3	カメラ操作によるトランスミッターの機能設定 カメラのメニュー画面からトランスミッターの機能を設定する方法	47
4	トランスミッターのカスタマイズ カスタム機能、パーソナル機能によるカスタマイズ	53
5	資料 システム図、よくある質問	59

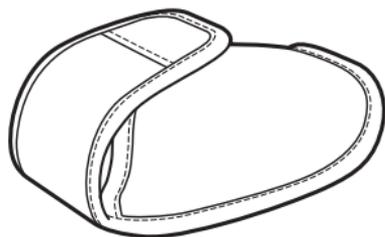
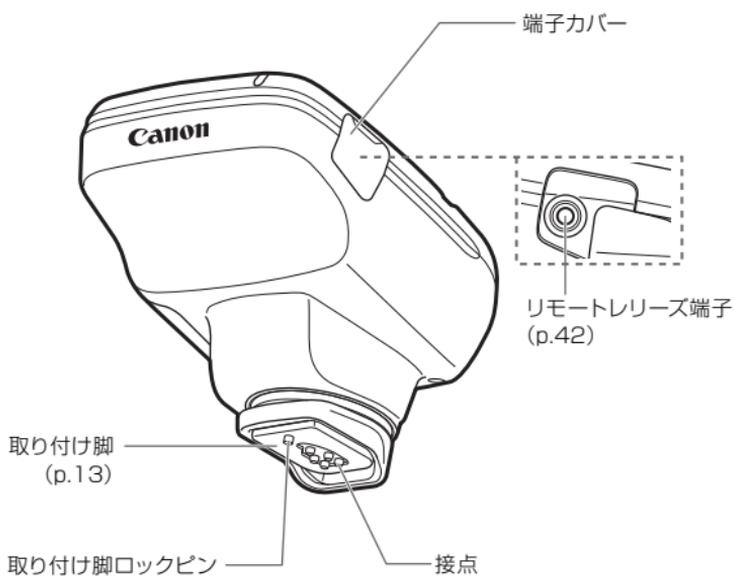
目次

はじめに	2
章目次	3
各部の名称	6
本使用説明書上のおことわり	10
1 使用前の準備	11
電池を入れる	12
カメラに取り付ける／取り外す	13
電源を入れる	13
2 電波通信ワイヤレスストロボ撮影	15
☑️ ワイヤレスストロボ撮影	16
ワイヤレス設定	20
ETTL: 全自動ワイヤレスストロボ撮影	24
全自動ワイヤレスの応用撮影	27
ETTL: 光量比を設定したワイヤレス多灯撮影	31
M: 発光量を設定したワイヤレス多灯撮影	34
Gr: グループごとに発光モードを設定した撮影	38
トランスミッター設定初期化	40
スレーブからのテスト発光	40
モデリング発光	41
スレーブからのリモートリリース	42
連動撮影	43
3 カメラ操作によるトランスミッターの機能設定	47
カメラのメニュー画面からの制御	48

4	トランスミッターのカスタマイズ	53
	C.Fn / P.Fn: カスタム／パーソナル機能の設定方法.....	54
	C.Fn: カスタム機能で変更できる内容.....	56
	P.Fn: パーソナル機能で変更できる内容.....	58
5	資料	59
	ST-E3-RT のシステム.....	60
	故障かな?と思ったら.....	61
	主な仕様.....	64
	索引.....	70

各部の名称



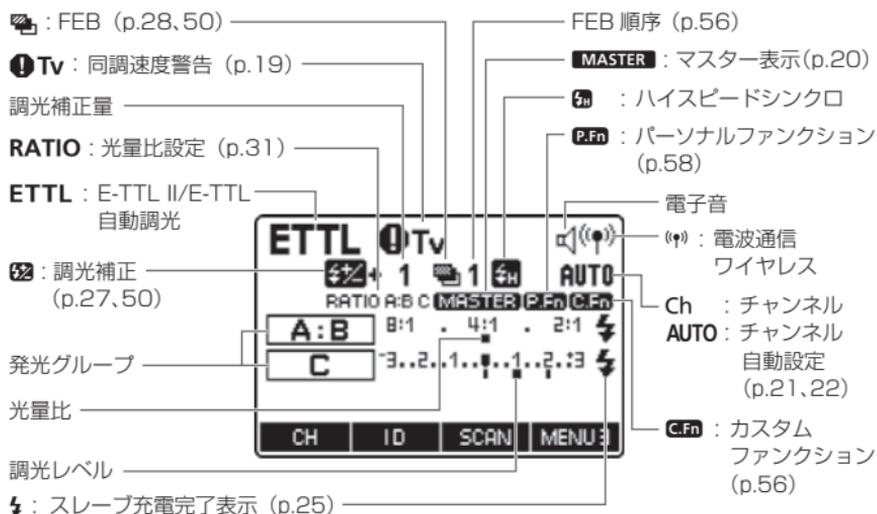


ケース

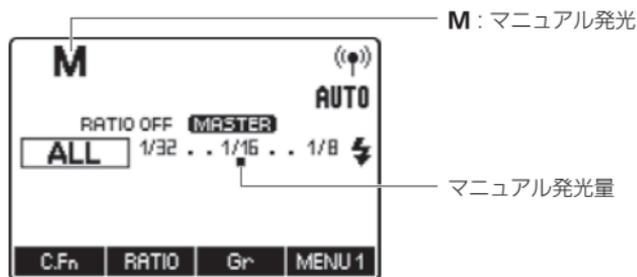
表示パネル

電波通信ワイヤレス撮影 (p.15)

● E-TTL II/E-TTL自動調光 (p.24)

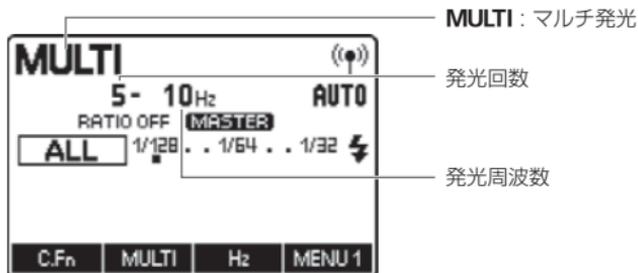


● マニュアル発光 (p.34)

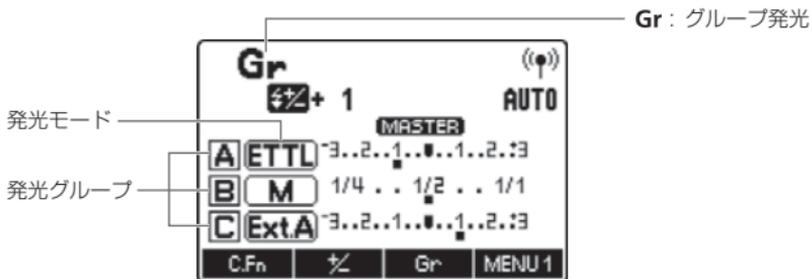


- 画面は表示例です。状況に応じた部分のみ表示されます。
- ファンクションボタン1~4の上に表示される〈C.Fn〉〈%〉などは、設定状況に応じて表示が変わります。
- ボタン、ダイヤルを操作すると、表示パネルが照明されます (p.14)。

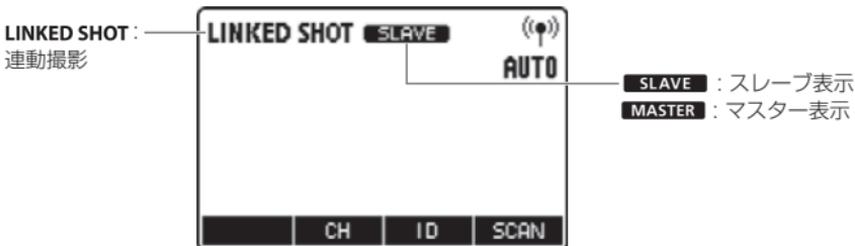
● マルチ発光 (p.35)



● グループ発光 (p.38)



● 連動撮影 (p.43)



本使用説明書上のおことわり

本文中の絵文字について

-  : 選択ダイヤルを示しています。
-  : 選択／設定ボタンを示しています。
-  : 操作ボタンから指を離したあとに、ボタンを押した状態が4秒間／6秒間／16秒間保持されることを示しています。
- (p. **) : 参照ページを示しています。
-  : 撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。
-  : 補足説明や補足事項を記載しています。

操作説明の前提について

- カメラ、トランスミッター、ストロボの電源が入っていることを前提に操作方法を説明しています。
- 本文中のボタン、ダイヤル、マークなどは、カメラ、トランスミッター、ストロボに使われている絵文字を使用しています。
- カメラのメニュー機能／カスタム機能、およびトランスミッター、ストロボのカスタム機能／パーソナル機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 各種数値は、単3形アルカリ乾電池を2本使用し、当社試験基準で測定した値です。

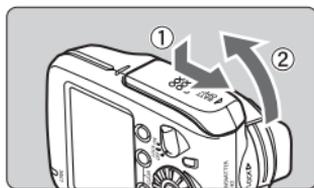
1

使用前の準備

この章では、ワイヤレスストロボ撮影を行う前の準備について説明しています。

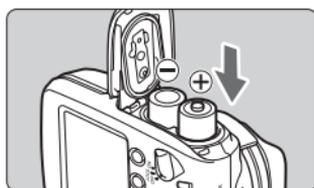
電池を入れる

電池は、単3形電池2本を使用します。



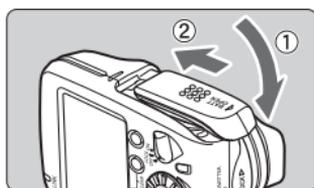
1 ふたを開ける

- ①のように、ふたを下にスライドさせて、電池室ふたを開きます。



2 電池を入れる

- 表示にしたがって、「+」「-」をまちがえないように電池を入れます。
- 電池室の側面の溝は、「-」を表しています。暗い場所で電池を交換するときに便利です。



3 ふたを閉める

- 電池室ふたを閉じて、上にスライドさせます。
- 「カチッ」と音がするまで、ふたをスライドさせます。

撮影可能時間

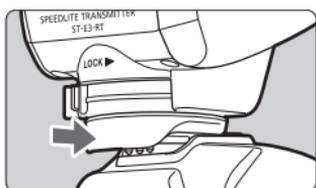
連続約10時間*のワイヤレスストロボ撮影ができます。

* 新品の単3形アルカリ乾電池使用、当社試験基準による数値

⚠ アルカリ乾電池以外の単3形電池は、接点の形状が規格で統一されていないため、電池の種類により、接触不良を起こすことがあります。

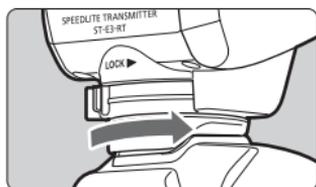
-  が表示されたときは、新しい電池に交換してください。
- 電池は2本とも新品で同一銘柄の電池を使用してください。電池の交換は2本同時に行ってください。
- 単3形のニッケル水素電池、リチウム電池も使用できます。

カメラに取り付ける／取り外す



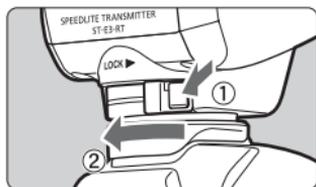
1 取り付ける

- トランスミッターの取り付け脚がアクセサリーシューの奥に突き当たるまで、差し込みます。



2 固定する

- 取り付け脚ロックレバーを、右方向へスライドさせます。
- ➔ 「カチッ」と音がしてロックされます。

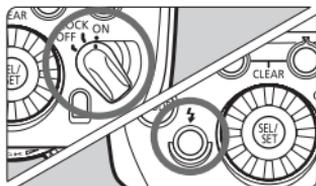


3 取り外す

- ロック解除ボタンを押しながら、取り付け脚ロックレバーを左方向にスライドさせて、カメラから外します。

 トランスミッターの取り付け／取り外しは、必ずトランスミッターの電源を切ってから行ってください。

電源を入れる



電源スイッチを〈ON〉にする

- ➔ 表示パネルが点灯します。
- 充電ランプは、ワイヤレス撮影（スレブ）の準備が完了すると点灯します。
- ワイヤレス撮影時にトランスミッターの充電ランプ（テスト発光ボタン）を押すと、テスト発光を行うことができます。

オートパワーオフ機能について

電池の消耗を防ぐため、5分間何も操作しないと、自動的に電源が切れます。もう一度電源を入れるときは、カメラのシャッターボタンを半押しするか、テスト発光ボタン（充電ランプ）を押します。

ロック機能について

電源スイッチを〈LOCK〉にすると、トランスミッターのボタンやダイヤル操作を禁止することができます。トランスミッターの機能の設定を行ったあと、不用意に設定が変わらないようにしたいときに使用します。

ボタンやダイヤルを操作すると、表示パネルに〈LOCKED〉が表示されます（ファンクションボタン1~4の上に表示される〈C.Fn〉〈〉などは表示されません）。

表示パネル照明について

ボタン、ダイヤルを操作すると、表示パネルが12秒間緑色で照明されます。機能設定中のときは、設定が終わるまで照明が行われます。

なお、連動撮影のマスターのときは、表示パネルが緑色に照明されます。スレーブのときは、オレンジ色に照明されます。



- カメラの 4 / 6 / 16 タイマーが働いているときは、テスト発光できません。
- トランスミッターの設定状態は、電源を切っても記憶されています。電池交換時に設定状態を保持したいときは、電源を切り、電池を取り出してから1分以内に電池を交換してください。
- 電源スイッチが〈LOCK〉の位置でもテスト発光を行うことができます。また、ボタンやダイヤルを操作すると、表示パネル照明が点灯します。
- スレーブの充電完了時に電子音を鳴らすことができます（C.Fn-20 / p.57）。
- オートパワーオフ機能が動かないようにすることができます（C.Fn-01 / p.56）。
- 表示パネル照明の点灯時間を変更することができます（C.Fn-22 / p.57）。
- 表示パネル照明の色を変更することができます（P.Fn-03、04 / p.58）。

2

電波通信 ワイヤレスストロボ撮影

この章では、ワイヤレスストロボ撮影方法について説明しています。

ワイヤレス撮影に必要なアクセサリについては、システム図を参照してください (p.60)。使用可能な地域と制限事項、および電波通信に関する注意事項については、別紙を参照してください。

 カメラの撮影モードが全自動モード、イメージゾーンのときは、この章の操作はできません。カメラの撮影モードをP/Tv/Av/M/B (応用撮影ゾーン) にしてください。

 カメラに取り付けたトランスミッターを「マスター」、ワイヤレス制御されるストロボを「スレーブ」と呼んでいます。

☎️ ワイヤレスストロボ撮影

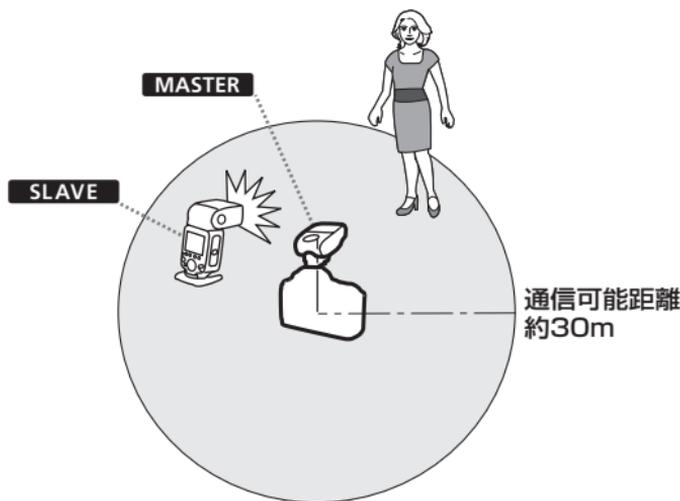
トランスミッターと電波通信によるワイヤレス撮影に対応したキヤノン製スピードライトをスレーブストロボとして使用すると、通常のE-TTL II/E-TTL自動調光ストロボ撮影と同じ感覚で、高度なワイヤレス多灯ライティング撮影を簡単に行うことができます。

カメラに取り付けたトランスミッター（マスター）の設定内容が、ワイヤレス制御されるストロボ（スレーブ）側に自動設定される仕組みになっています。そのため、撮影中にスレーブを操作する必要はありません。

なお、基本的な配置と作動範囲は図のとおりです。あとは、マスターを<ETTL>に設定するだけで、ワイヤレスE-TTL II/E-TTL自動調光撮影を行うことができます。

配置と作動範囲（ワイヤレスストロボ撮影例）

●スレーブを1灯使った自動調光撮影（p.24）

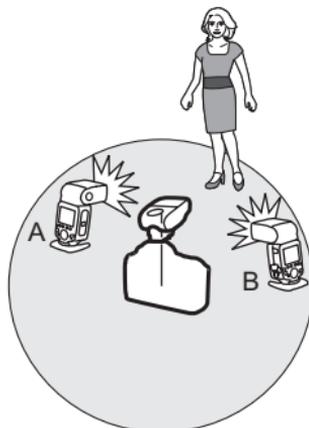


- ストロボに付属しているミニスタンドを使用して、スレーブを配置します。
- 撮影する前に、テスト発光（p.13）や、テスト撮影を行ってください。
- ストロボの配置条件や周囲の環境、気象条件などにより、通信可能距離が短くなることがあります。

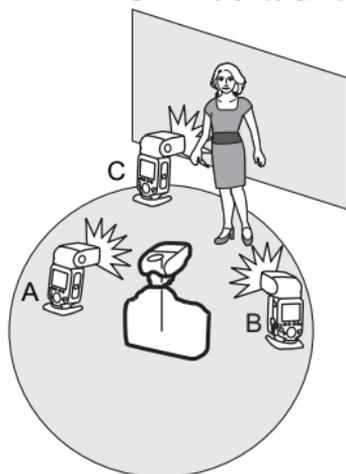
ワイヤレス多灯撮影

スレーブを2グループ、または3グループに分けて、光量比（倍率）を変えながら、E-TTL II/E-TTL自動調光撮影を行うことができます。また、最大5グループまでの範囲で、発光グループごとに発光モードを設定して、撮影することもできます。

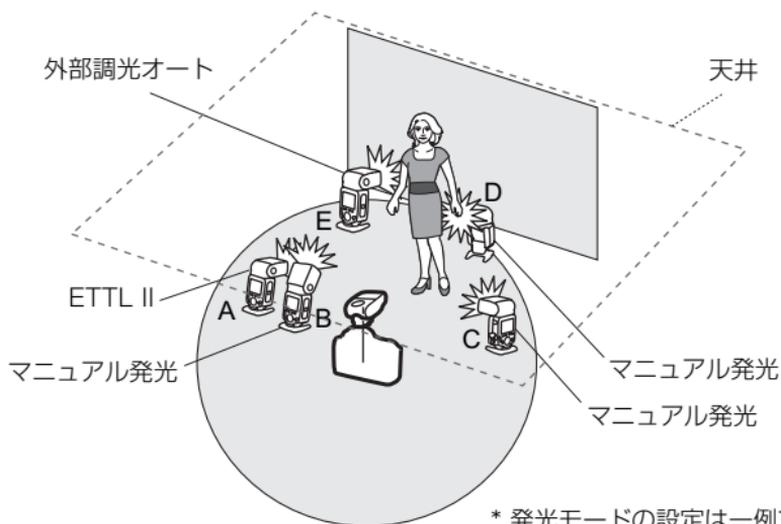
●スレーブを2グループに分けた自動調光撮影 (p.31)



●スレーブを3グループに分けた自動調光撮影 (p.32)



●グループごとに発光モードを設定した撮影 (p.38)



使用カメラによる機能制限について

電波通信ワイヤレスストロボ撮影では、使用するカメラにより「発光モード」と「ストロボ同調最高シャッター速度」（以下「ストロボ同調速度」）、「ハイスピードシンクロ機能」が制限されることがあります。

● 2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラ

EOS-1D Xなどのカメラと組み合わせたときは、発光モードとストロボ同調速度に制限なく撮影することができます。

● 2011年までに発売されたE-TTL対応EOSカメラ

下記のカメラと組み合わせたときは、E-TTL自動調光による電波通信ワイヤレス撮影はできません。マニュアル発光（p.34）、マルチ発光（p.35）で撮影してください。

EOS-1Ds、EOS-1D、EOS-1V、EOS-3、EOS 55、
EOS Kiss III L、EOS Kiss III、New EOS Kiss、EOS IX E、
EOS IX 50

また、2011年までに発売されたデジタル/フィルムカメラと組み合わせたときは、以下の制限を受けます。

① ストロボ同調速度が1段遅くなります。

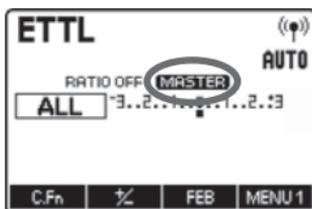
使用するカメラのストロボ同調速度（ $X=1/**$ 秒）を確認して、ストロボ同調速度から1段遅いシャッター速度を上限にして撮影を行ってください（例： $X=1/250$ 秒の場合、 $1/125\sim 30$ 秒の範囲で電波通信ワイヤレス撮影が可能）。また、ハイスピードシンクロ撮影はできません。シャッター速度をストロボ同調速度から1段遅くすると、〈**TV**〉による警告表示が消えます。

② グループ発光はできません（p.38）。

ワイヤレス設定

ワイヤレス撮影を行うときは、以下の手順でトランスミッター（マスター）、ストロボ（スレーブ）の設定を行います。

マスター設定



〈MASTER〉の表示を確認する

- 〈MASTER〉が図の位置に表示されていることを確認します。

スレーブ設定

電波通信ワイヤレスストロボ撮影に対応したストロボをスレーブに設定する

- スレーブの設定方法についてはストロボの使用説明書を参照してください。

通信チャンネル／電波通信IDの設定

他の人が使用している電波通信によるワイヤレス多灯システムや、電波（無線）を使用した機器と混信しないように、通信チャンネルと電波通信IDを切り換えることができます。チャンネルとIDは、マスター、スレーブとも同じ設定にします。

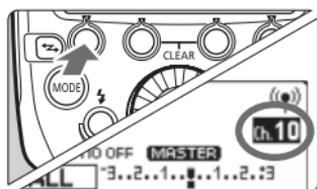
- ⓘ 同じ場所に複数の電波通信ワイヤレス多灯システムを構築するときは、異なるチャンネルに設定していても混信することがあるため、チャンネルごとに異なる電波通信IDを設定してください（p.21）。

● マスターの通信チャンネル／電波通信IDを設定する

以下の操作で、マスターの通信チャンネルと電波通信IDを設定します。チャンネルとIDは、マスターとスレーブで同じ設定にします。スレーブの設定方法については、ストロボの使用説明書を参照してください。

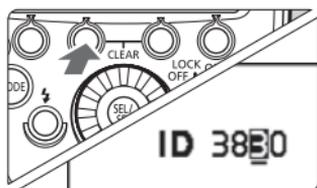
1 <MENU 3> の表示にする

- ファンクションボタン4を押して、<MENU 3> の表示にします。



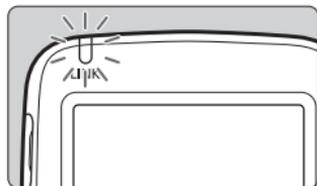
2 チャンネルを設定する

- ファンクションボタン1 <CH> を押します。
- <SEL> を回して、「AUTO」またはCh.1～15の中から選び、<OK> ボタンを押します。



3 電波通信IDを設定する

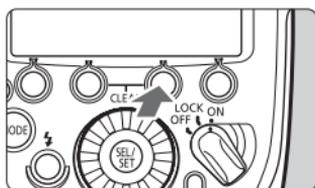
- ファンクションボタン2 <ID> を押します。
 - <SEL> を回して、設定する位置（桁）を選び、<OK> ボタンを押します。
 - <SEL> を回して 0～9 の番号を選び、<OK> ボタンを押します。
 - 手順3を繰り返して4桁の番号を設定します。
 - ファンクションボタン4 <5> を押すと、撮影準備状態に戻ります。
- ➔ マスターとスレーブの通信が確立すると、<LINK> ランプが「緑色」に点灯します。



● マスターの通信チャンネルをスキャンして設定する

電波状態をスキャンして、マスターの通信チャンネルを自動または手動で設定することができます。チャンネルが「AUTO」に設定されているときは、自動的に電波状態の良いチャンネルに再設定されます。手動設定のときは、スキャン結果を参考にして、再設定することができます。

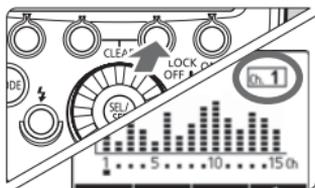
「AUTO」設定状態からスキャン



スキャンする

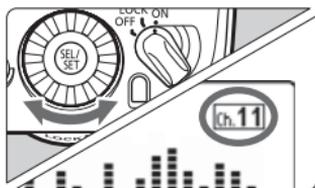
- ファンクションボタン4を押して、**〈MENU 3〉**の表示にします。
 - ファンクションボタン3 **〈SCAN〉**を押します。
- 電波状態の良いチャンネルに再設定されます。

Ch.1~15設定状態からスキャン



1 スキャンする

- ファンクションボタン4を押して、**〈MENU 3〉**の表示にします。
 - ファンクションボタン3 **〈SCAN〉**を押します。
- 電波状態がグラフで表示されます。
- グラフの山が高いチャンネルほど、電波状態が良いことを表しています。



2 チャンネルを設定する

- **〈SEL/SET〉**を回して、Ch.1~15の中から選びます。
- **〈MENU 3〉**ボタンを押すと、チャンネルが設定され、撮影準備状態に戻ります。

〈LINK〉ランプについて

マスターとスレーブの通信状態により〈LINK〉ランプの色が異なります。

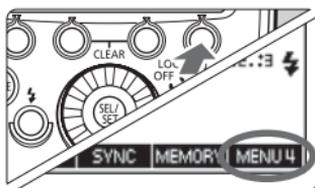
色	状態	内容	対処
緑色	点灯	通信OK	—
赤色	点灯	未接続	チャンネル、IDの確認
	点滅	台数超過	マスター+スレーブ=16台以下
		エラー	電源入れ直し



- マスターとスレーブの通信チャンネルが異なると、スレーブは発光しません。ともに同じ番号に設定するか、ともに「AUTO」に設定してください。
- マスターとスレーブの電波通信IDが異なると、スレーブは発光しません。

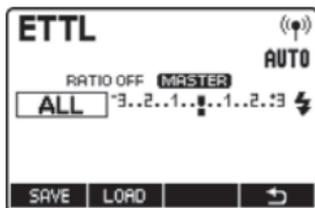
メモリー機能について

ワイヤレス設定した内容を保存したり、呼び出すことができます。



1 ファンクションボタン4を押す

- ファンクションボタン4を押して、〈MENU 4〉の表示にします。



2 設定内容を保存する／呼び出す

- ファンクションボタン3 〈MEMORY〉を押します。

【保存】

- ファンクションボタン1 〈SAVE〉を押します。

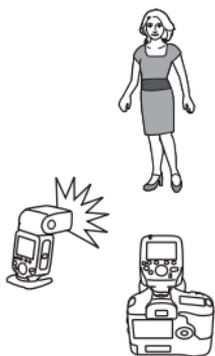
➔ 設定内容が保存（記憶）されます。

【呼び出し】

- ファンクションボタン2 〈LOAD〉を押します。

➔ 保存したときの設定内容になります。

ETTL: 全自動ワイヤレスストロボ撮影



カメラに取り付けたトランスミッター（マスター）と、ワイヤレス制御を行うストロボ（スレーブ）を使った基本的な全自動ワイヤレス撮影について説明します。

スレーブを1灯使った自動調光撮影

1 ストロボをスレーブに設定する

- スレーブの設定方法については、ストロボの使用説明書を参照してください。
- 発光グループは、A/B/C のいずれかに設定してください。D/Eに設定しても発光しません。

2 チャンネルとIDを確認する

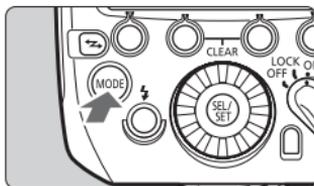
- マスターとスレーブのチャンネルと ID が異なるときは、同じ番号に設定します (p.21、22)。

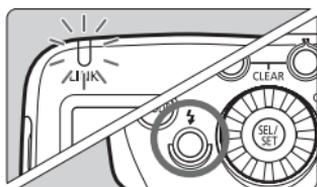
3 カメラとストロボを配置する

- 16ページに示した範囲内に配置します。

4 発光モードを〈ETTL〉にする

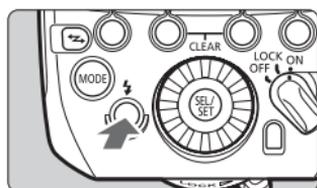
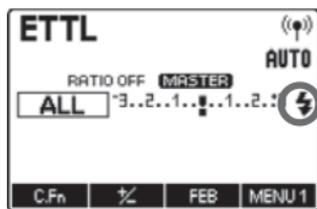
- マスターの〈MODE〉ボタンを押して、発光モードを〈ETTL〉に設定します。
- スレーブはマスターからの制御により、撮影時に〈ETTL〉に自動設定されます。





5 通信状態と充電を確認する

- 〈LINK〉ランプが「緑色」に点灯していることを確認します。
- スレーブの充電が完了すると、AF補助光の投光部が1秒間隔で点滅します。
- マスターの表示パネルに、スレーブの充電完了を表す⚡が点灯していることを確認します。
- すべてのストロボの充電が完了すると、マスターの充電ランプが点灯します。



6 作動確認をする

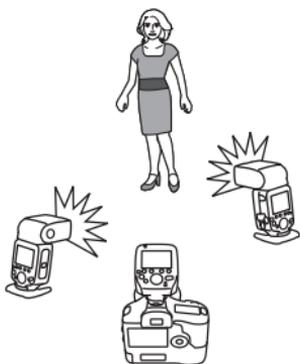
- マスターのテスト発光ボタン（充電ランプ）を押します。
- ➔ スレーブが発光します。発光しないときは、作動範囲内に配置されているか、確認してください。

7 撮影する

- 通常のストロボ撮影と同じように、カメラの設定を行ってから撮影します。
- ➔ 標準露出で撮影が行われたときは、調光確認ランプが3秒間点灯します。

❶ 〈LINK〉ランプが赤色のときは電波通信ができていない状態です。マスターとスレーブの通信チャンネルと電波通信IDの設定を再度確認してください。同じ設定でつながらないときは、電源を入れ直してください。

複数のスレーブを使った自動調光撮影



より大きな光量が必要なときや、手軽にライティングを行いたいときは、スレーブの台数を増やして、1つのストロボとして発光させることができます。

スレーブを追加して、『スレーブを1灯使った自動調光撮影』と同じ手順で撮影します。発光グループは、A/B/Cのいずれかに設定してください。D/Eに設定しても発光しません。

スレーブの台数を増やしたときは、すべてのストロボが同じ光量で発光し、光量の合計（和）が標準露出になるように自動制御されます。

- カメラの絞り込みボタンを押すと、モデリング発光を行うことができます (p.41)。
- スレーブがオートパワーオフ状態になったときは、マスターのテスト発光ボタン (p.13) を押すと、スレーブの電源が入ります。ただし、カメラの測光タイマーが作動しているときは、テスト発光できません。
- 使用するカメラにより、自動調光方式 (E-TTL II/E-TTL) が自動的に決まります。ただし、表示パネルには、ともに **<ETTL>** と表示されます。
- すべてのスレーブの充電が完了したときに、電子音を鳴らすことができます (C.Fn-20/p.57)

全自動ワイヤレスの応用撮影

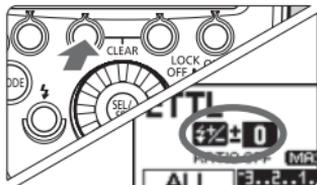
本システムでは、トランスミッター（マスター）で設定した調光補正などの内容が、そのままストロボ（スレーブ）に自動設定されます。スレーブを操作する必要はありません。

調光補正

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。設定できる補正量は1/3段ステップ±3段です。

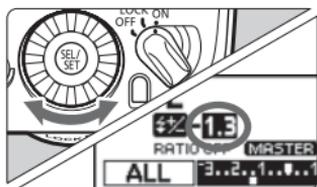
1 <MENU 1> の表示にする

- ファンクションボタン4を押して、<MENU 1> の表示にします。



2 <±> ボタンを押す

- ファンクションボタン2 <±> を押します。
- <調光補正アイコン> が表示され、補正量が反転します。



3 補正量を設定する

- <ダイヤル> を回して補正量を設定し、<ダイヤル> を押します。
- 補正量が設定されます。
- 「0.3」は1/3段、「0.7」は2/3段です。
- 調光補正を解除するときには、補正量を「±0」に戻します。



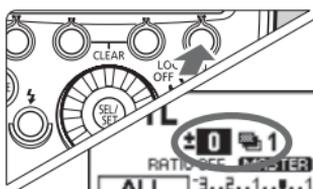
- 一般的に、白い被写体に対してはプラス補正、黒い被写体に対してはマイナス補正を行います。
- カメラの露出設定が1/2段ステップのときは、1/2段ステップ±3段になります。
- トランスミッターとカメラの両方で調光補正を設定したときは、トランスミッターの設定が優先されます。
- ボタンを押さずに <ダイヤル> で直接、調光補正量を設定することができます (C.Fn-13/p.57)。

FEB

ストロボの光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。これをFEB (Flash Exposure Bracketing) 撮影といいます。設定できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。

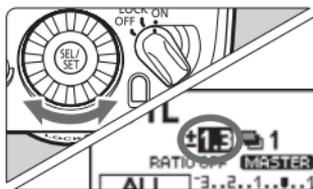
1 <MENU 1> の表示にする

- ファンクションボタン4を押して、<MENU 1> の表示にします。



2 <FEB> ボタンを押す

- ファンクションボタン3 <FEB> を押します。
- <FEB> が表示され、FEBレベルの表示が反転します。



3 FEBレベルを設定する

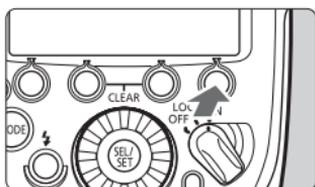
- <ZOOM IN> を回して FEB レベルを設定し、<ZOOM OUT> を押します。
- FEBレベルが設定されます。
- 「0.3」は1/3段、「0.7」は2/3段です。
- 調光補正と併用するときは、調光補正量を中心にしてFEB撮影が行われます。



- 3枚撮影後、FEBは自動解除されます。
- FEB撮影を行うときは、カメラのドライブモードを1枚撮影に設定し、充電を確認してから撮影することをおすすめします。
- 調光補正やFEロックと組み合わせて撮影することができます。
- カメラの露出設定が1/2段ステップのときは、1/2段ステップ±3段になります。
- 3枚撮影後にFEBが自動的に解除されないようにすることができます (C.Fn-03/p.56)。
- FEBの撮影順序を変更することができます (C.Fn-04/p.56)。

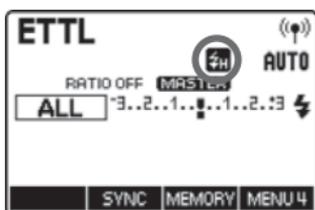
⚡ ハイスピードシンクロ

ハイスピードシンクロ機能を使用すると、すべてのシャッター速度でストロボ撮影を行うことができます。特に日中シンクロで、被写体の背景をぼかしたポートレート撮影を、絞り優先AEで行いたいときに有効です。



1 <MENU 4> の表示にする

- ファンクションボタン4を押して、<MENU 4> の表示にします。



2 <H> を表示させる

- ファンクションボタン2 <SYNC> を押して、<H> を表示させます。
- ファインダー内で <H> の点灯を確認します。

- 2011年までに発売されたE-TTL対応EOSカメラと組み合わせたときは、ハイスピードシンクロ撮影はできません (p.19)。
- ハイスピードシンクロ撮影では、シャッター速度が高速になるほど、ストロボ光の到達距離が短くなります。

- シャッター速度をストロボ同調最高シャッター速度以下に設定したときは、ファインダー内に <H> は表示されません。
- 通常の発光に戻すときは、ファンクションボタン2 <SYNC> を押して <H> を消します。
- マルチ発光のときは、ハイスピードシンクロはできません。

FEL: FEロック

FE (Flash Exposure) ロックは、被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。

FEロックはカメラを操作して行います。操作方法については、カメラとストロボの使用説明書を参照してください。

- FEロックを行ったときに、適切な露出が得られないときは、ファインダー内の  が点滅します。スレーブを被写体に近づけたり、絞りを開いて再度FEロックを行ってください。デジタルカメラのときは、ISO感度を上げる方法もあります。
- カメラのファインダー視野に対して被写体が小さいと、FEロックの効果を得られないことがあります。

マスターストロボについて

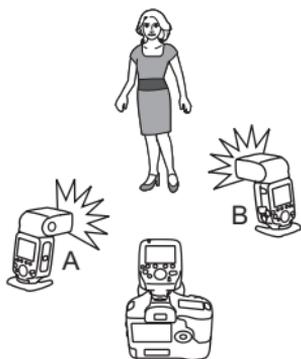
マスターを2台以上にすることができます (マスター+スレーブ=最大16台)。マスターを取り付けたカメラを複数台用意すると、同じライティング (スレーブ) のまま、カメラを替えて撮影することができます。

なお、マスターを2台以上にしたときは、電源を入れた順番に応じて **<LINK>** ランプの色が異なります。マスター1台目 (メインマスター) は「緑色」、マスター2台目以降 (サブマスター) は「オレンジ色」に点灯します。

- **<LINK>** ランプが赤色のときは未接続状態です。通信チャンネル、電波通信IDを確認してから、マスターの電源を1台ずつ入れ直してください。

ETTL: 光量比を設定したワイヤレス多灯撮影

スレーブを2グループに分けた自動調光撮影



スレーブをAとBの2つの発光グループに分け、ライティングバランス（光量比）を調整して撮影することができます。

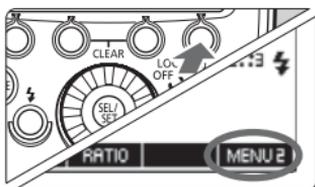
露出は、発光グループA、Bの光量の合計（和）が標準露出になるように自動制御されます。

1 スレーブの発光グループを設定する

- スレーブを操作して1台ずつ設定します。
- 1台をくA)、もう1台をくB)に設定します。
- スレーブの設定方法については、ストロボの使用説明書を参照してください。

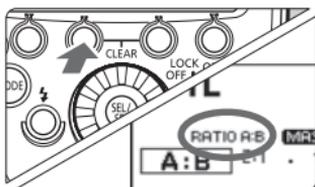
2 <MENU 2> の表示にする

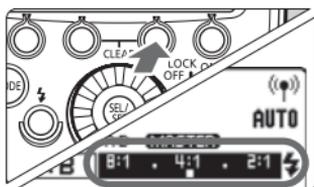
- 手順2～4はマスターを操作して設定します。
- マスターのファンクションボタン4を押して、<MENU 2>の表示にします。



3 <RATIO A:B> に設定する

- ファンクションボタン2 <RATIO> を押して <RATIO A:B> に設定します。





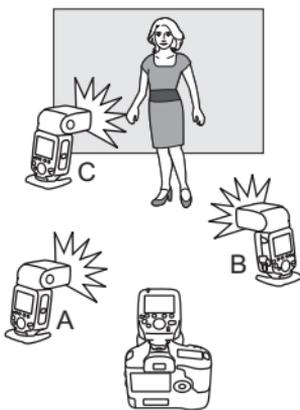
4 光量比を設定する

- ファンクションボタン3 < Gr > を押します。
- ファンクションボタン3 < A:B % > を押します。
- <  > を回して光量比を設定し、<  > ボタンを押します。
- ファンクションボタン4 <  > を押し、撮影準備状態に戻ります。

5 撮影する

- ➔ 設定した光量比で、スレーブが発光します。

スレーブを3グループに分けた自動調光撮影



発光グループA、Bに、発光グループCを追加することができます。Cは、被写体の背景の影を消すライティングを行いたいときなどに有効です。

基本的な設定方法は、『スレーブを2グループに分けた自動調光撮影』と同じです。

1 ストロボを発光グループCに設定する

- スレーブの設定方法については、ストロボの使用説明書を参照してください。

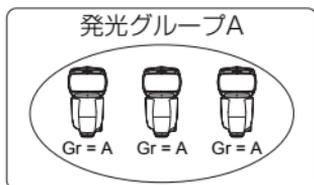
2 <RATIO A:B C> に設定する

- 前ページの手順2、3と同じ操作で、マスターを <RATIO A:B C> に設定します。

3 必要に応じて調光補正を行う

- ファンクションボタン3 (Gr) を押し、(☉) を回して (C) を選びます。
- ファンクションボタン3 (C%) を押しします。
- (☉) を回して補正量を設定し、(☉) ボタンを押します。
- ファンクションボタン4 (→) を押しすと、撮影準備状態に戻ります。

グループ制御について



より大きな光量が必要なときや、高度なライティングを行いたいときは、スレーブの台数を増やすことができます。追加するスレーブを、光量を大きくしたい発光グループ (A/B/Cのいずれか) に設定するだけです。スレーブは合計15台まで増やすことができます。

例えば、3台のスレーブの発光グループを (A) に設定したときは、3台を発光量の大きい1灯のAグループストロボとみなして制御します。

- 発光グループA/B/Cの3グループで発光させるときは、(RATIO A:B:C) に設定してください。(RATIO A:B) の設定では、発光グループCは発光しません。
- 発光グループCを直接主被写体に向けて撮影すると、露出オーバーになることがあります。

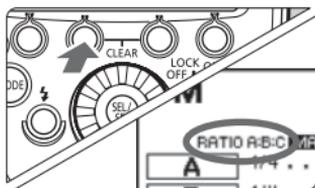
- 光量比の8:1~1:1~1:8は、段数換算で3:1~1:1~1:3 (1/2段ステップ) に相当します。
- 光量比設定の詳細は、次のとおりです。

8:1 . 4:1 . 2:1 . 1:1 . 1:2 . 1:4 . 1:8
 5.6:1 2.8:1 1.4:1 1:1.4 1:2.8 1:5.6

M: 発光量を設定したワイヤレス多灯撮影

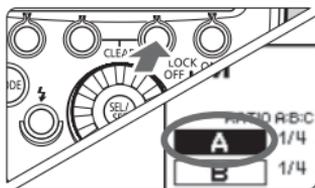
マニュアル発光によるワイヤレス（多灯）撮影です。スレーブ（発光グループ）ごとに発光量を設定して撮影することができます。設定はすべてマスター側で行います。

1 発光モードを〈M〉にする



2 発光グループ数を設定する

- 〈MENU 1〉が表示された状態で、ファンクションボタン2 〈RATIO〉を押して、発光させるグループを設定します。
- 押すごとに、ALL (RATIO OFF) → A/B (RATIO A:B) → A/B/C (RATIO A:B:C) の順に切り換わります。

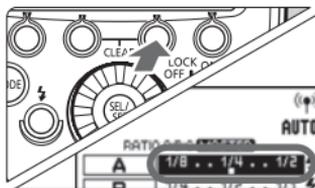


3 発光グループを選ぶ

- ファンクションボタン3 〈Gr〉を押し、〈☉〉を回して発光量を設定するグループを選びます。

4 発光量を設定する

- ファンクションボタン3 〈*/%〉を押します。
- 〈☉〉を回して発光量を設定し、〈☉〉ボタンを押します。
- 手順3、4を繰り返して、すべてのグループの発光量を設定します。



5 撮影する

- ➔ 設定した発光量で、各グループが発光します。

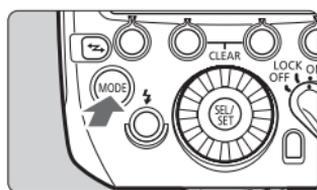
- ALL 〈RATIO OFF〉設定時は、スレーブの発光グループをA/B/Cのいずれかに設定してください。D/Eに設定しても発光しません。
- 複数のスレーブを同じ発光量で発光させるときは、手順2でALL〈RATIO OFF〉を選びます。

MULTI: マルチ発光

マルチ発光は、マニュアル発光の応用的な撮影方法です。

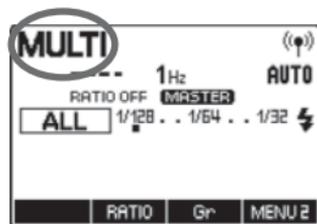
低速シャッターでマルチ発光を行うと、一枚の写真の中に連続した動きを分解写真のようにして、重ねて撮影することができます。

マルチ発光では、発光量、発光回数、発光周波数（1秒間の発光回数＝Hz）を設定します。最大連続発光回数については、37ページを参照してください。



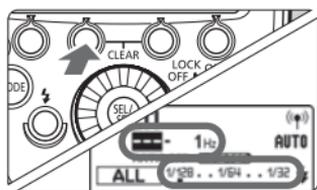
1 発光モードを〈MULTI〉にする

- マスターの〈MODE〉ボタンを押して、〈MULTI〉に設定します。



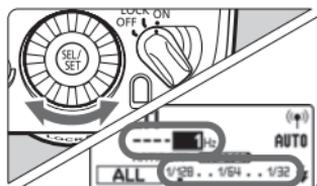
2 発光グループと発光量を設定する

- 設定方法は、前ページのマニュアル発光を参考にして、発光グループ数と各グループの発光量を設定します。



3 発光周波数と発光回数を設定する

- 〈MENU 1〉が表示された状態で以下の操作を行います。
- 発光回数を設定するときは、ファンクションボタン2〈MULTI〉を押し、〈SEL/SET〉を回して〈OK〉ボタンを押します。
- 発光周波数を設定するときは、ファンクションボタン3〈Hz〉を押し、〈SEL/SET〉を回して〈OK〉ボタンを押します。



●シャッター速度の求め方

マルチ発光では、連続発光が終わるまでシャッターが開いているように、以下の計算式から求めたシャッター速度をカメラに設定します。

発光回数 ÷ 発光周波数 = シャッター速度

例えば、発光回数10(回)、発光周波数5(Hz)で撮影する場合は、シャッター速度を2秒以上に設定します。

- 過熱によるスレーブの発光部の劣化と損傷を防ぐため、マルチ発光による繰り返し撮影は10回までにしてください。10回撮影したときは、15分以上休止してください。
- 10回を超える繰り返し撮影を行うと、スレーブの安全機能が働いて発光制限が行われることがあります。そのときは15分以上休止してください。

- マルチ発光は、反射率の高い被写体と暗い背景の組み合わせが最も効果的です。
- 三脚、リモートスイッチの使用をおすすめします。
- 1/1発光、1/2発光でのマルチ発光はできません。
- カメラの撮影モードが「**buLb**」でもマルチ発光ができます。
- 発光回数の表示が「---」のときは、シャッターが閉じるか、充電の容量がなくなるまで連続発光しますが、最大連続発光回数は、次ページの表のとおりになります。

最大連続発光回数

発光量 \ Hz	1	2	3	4	5	6-7	8-9
1/4	7	6	5	4	4	3	3
1/8	14	14	12	10	8	6	5
1/16	30	30	30	20	20	20	10
1/32	60	60	60	50	50	40	30
1/64	90	90	90	80	80	70	60
1/128	100	100	100	100	100	90	80

発光量 \ Hz	10	11	12-14	15-19	20-50	60-199	250-500
1/4	2	2	2	2	2	2	2
1/8	4	4	4	4	4	4	4
1/16	8	8	8	8	8	8	8
1/32	20	20	20	18	16	12	10
1/64	50	40	40	35	30	20	15
1/128	70	70	60	50	40	40	30

- 発光回数が「--」（バー表示）のときの最大発光回数は、表のとおりになります。

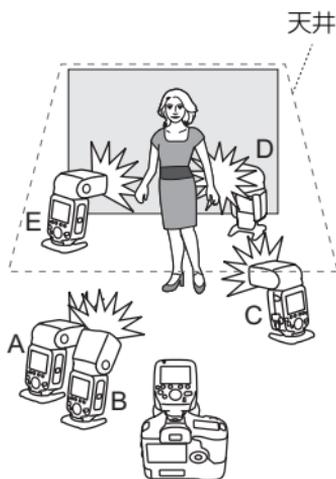
1~199Hz設定時

発光量	1/4	1/8	1/16	1/32	1/64	1/128
発光回数	2	4	8	12	20	40

250~500Hz設定時

発光量	1/4	1/8	1/16	1/32	1/64	1/128
発光回数	2	4	8	10	15	30

Gr: グループごとに発光モードを設定した撮影

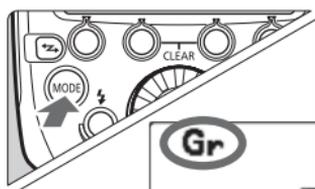


EOS-1D Xなど2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラを使用すると、最大5グループ (A/B/C/D/E) までの範囲で、発光グループごとに発光モードを設定して撮影することができます。

設定できる発光モードは、①E-TTL II/E-TTL自動調光、②マニュアル発光、③外部調光オートです。発光モードが①③のときは、1つのグループで主被写体が標準露出になるように露出制御されます。

ライティングに対する知識と経験が豊富な上級者向けの機能です。

2011年までに発売されたカメラでは、〈Gr〉の発光モードでワイヤレスストロボ撮影を行うことはできません。最大3グループ (A/B/C) での撮影になります (p.32)。

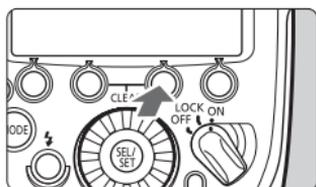


1 発光モードを〈Gr〉にする

- マスターの〈MODE〉ボタンを押して、発光モードを〈Gr〉に設定します。

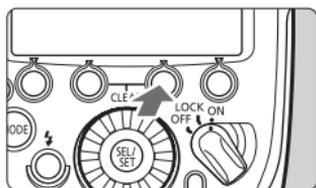
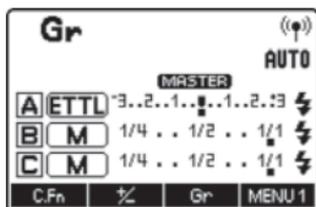
2 スレーブの発光グループを設定する

- スレーブを操作して1台ずつ設定します。
- すべてのスレーブに発光グループ (A/B/C/D/E) を設定します。
- スレーブの設定方法は、ストロボの使用説明書を参照してください。



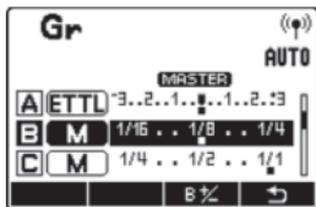
3 発光モードを設定する

- マスターを操作して、各発光グループの発光モードを設定します。
- <MENU 1> が表示された状態で、ファンクションボタン3 <Gr> を押し、<SEL SET> を回してグループを選びます。
- ファンクションボタン2 <*MODE> を押して、選択したグループの発光モードを<ETTL> <M> <Ext.A> の中から選びます。
- 選択したグループを発光させないときは、ファンクションボタン1 <ON/OFF> を押して<OFF> にします。
- 手順3を繰り返して、すべてのグループの発光モードを設定します。



4 発光量／調光補正量を設定する

- 発光グループを選んだ状態で、ファンクションボタン3 <*%> を押します。
- <SEL SET> を回して発光モードに応じた発光機能を設定し、<SEL SET> を押します。
- <M> のときは、発光量を設定します。<ETTL> <Ext.A> のときは、必要に応じて調光補正量を設定します。
- <MENU 1> が表示された状態で、ファンクションボタン2 <*%> を押すと、発光グループ全体の調光補正を行うことができます。
- 手順4を繰り返して、すべてのグループの発光機能を設定します。



5 撮影する

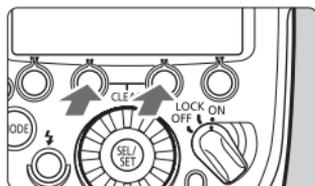
- 各スレーブが設定したそれぞれの発光モードで発光します。

🔊 発光グループの発光モードが〈ETTL〉〈Ext.A〉のときは、1つのグループで主被写体が標準露出になるように露出制御されるため、複数の発光グループを主被写体に向けて発光させると、露出オーバーになることがあります。

📶 発光させるグループは、A/C/Eのように連続していなくても構いません。

トランスミッター設定初期化

ワイヤレス撮影の設定を初期状態に戻すことができます。



ファンクションボタン2と3を同時に2秒以上押す

- トランスミッターの設定が初期化され、発光モードが〈ETTL〉になります。

📶 設定初期化を行っても、通信チャンネルと電波通信ID、およびC.FnとP.Fnの設定 (p.54) は解除されません。

スレーブからのテスト発光

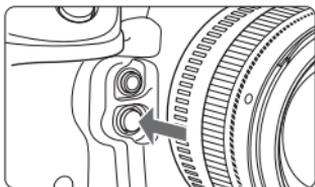
スレーブに設定されているストロボからテスト発光を行うことができます。操作方法については、ストロボの使用説明書を参照してください。

📶 マスターが2台以上のときは、〈LINK〉ランプが「緑色」に点灯しているマスターが発光します。

モデリング発光

カメラの絞り込みボタンを押すと、ストロボが1秒間連続的に発光します。この機能をモデリング発光といいます。ストロボ光による被写体の影の出かたやライティングのバランスを確認するときに使用します。

マスターからのモデリング発光



カメラの絞り込みボタンを押す

→ ストロボが1秒間連続的に発光します。

スレーブからのモデリング発光

2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラのときは、スレーブに設定されているストロボからモデリング発光を行うことができます。操作方法については、ストロボの使用説明書を参照してください。

- 2011年までに発売されたカメラのときは、スレーブからのモデリング発光はできません。
- 過熱によるストロボの発光部の劣化と損傷を防ぐため、モデリング発光は連続10回までにしてください。連続10回発光したときは、10分以上休止してください。
- 連続して10回を超える発光を行うと、ストロボの安全機能が働いて発光制限が行われることがあります。そのときは15分以上休止してください。
- EOS Kiss III、およびEOS Kiss III Lと組み合わせたときは、モデリング発光はできません。

- マスターが2台以上のときは、〈LINK〉ランプが「緑色」に点灯しているマスターが発光します。
- テスト発光ボタンでモデリング発光を行うことができます(C.Fn-02/p.56)。

スレーブからのリモートリリース

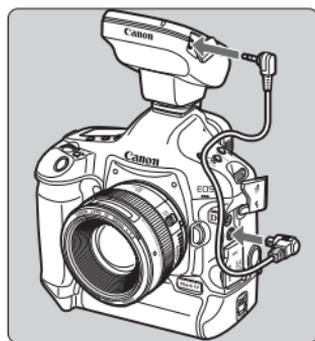
スレーブに設定されているストロボからリモートリリース（リモコン撮影）を行うことができます。操作方法については、ストロボの使用説明書を参照してください。

この機能を使って撮影するときは、使用するカメラにより「リリースケーブルSR-N3」（別売）が必要です。

スレーブリモートリリース対応カメラ

EOS-1D Xなど2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラのときは、「リリースケーブルSR-N3」は必要ありません。

スレーブリモートリリース非対応カメラ



上記以外のN3タイプのリモコン端子を備えた、E-TTL II/E-TTL自動調光対応のEOSカメラを使用して、スレーブからリモートリリースを行うときは、「リリースケーブルSR-N3」（別売）が必要です。

図のように、カメラとトランスミッターをケーブルで接続します。

- カメラとトランスミッターの電源を切った状態でリリースケーブルを接続してください。
- AFでピント合わせができないときは撮影は行われません。手動ピント合わせを行ってからリリースすることをおすすめします。
- 「リリースケーブル SR-N3」（別売）は、N3タイプのリモコン端子用です。N3タイプ以外のリモコン端子を備えたカメラには使用できません。

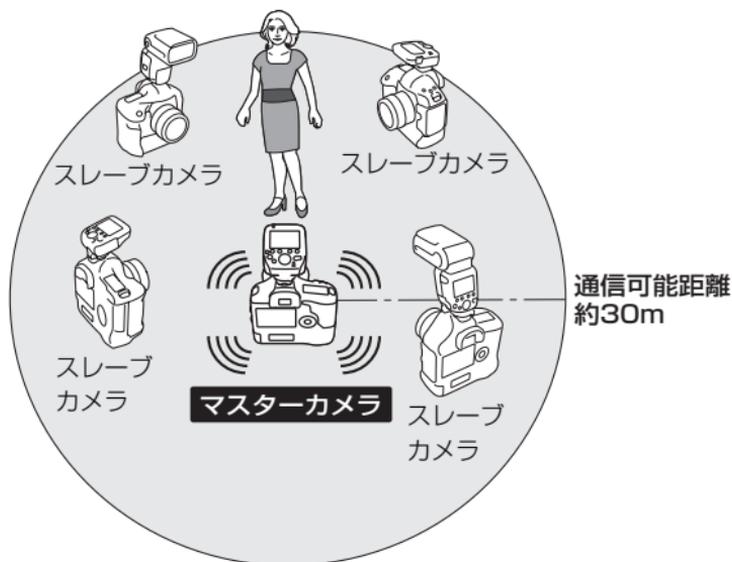
- カメラのドライブモードの設定に関わらず、「1枚撮影」でリモートリリースが行われます。
- マスターが2台以上のときは、〈LINK〉ランプが「緑色」に点灯しているマスターでリモートリリースが行われます。

連動撮影

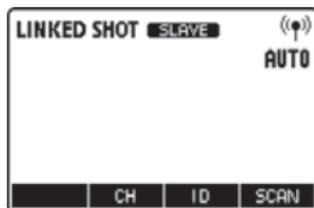
連動撮影は、マスターカメラのレリーズに連動してスレーブカメラを自動レリーズさせる機能です。マスターとスレーブを合わせて最大16台の連動撮影を行うことができます。被写体を複数のアングルから一斉に撮影したいときに有効です。

連動撮影を行うときは、電波通信ワイヤレス撮影に対応したストロボ、またはスピードライトトランスミッター ST-E3-RTをカメラに装着します。

なお、2011年までに発売された、N3タイプのリモコン端子を備えたカメラを「スレーブカメラ」で使用するときには、「レリーズケーブルSR-N3」(別売)が必要です。ケーブルの取り付け方法については、42ページを参照してください。



次ページの操作を行う前に、連動撮影を行うすべてのトランスミッター、ストロボを各カメラに装着してください。なお、ストロボの設定方法については、ストロボの使用説明書を参照してください。



1 連動撮影モードにする

- 表示パネルに〈LINKED SHOT〉が表示されるまで、〈〉ボタンを長く押します。
- ➔ 連動撮影モードの「スレーブ」になります。
- もう一度〈〉ボタンを押すと、連動撮影モードの「マスター」になります。

2 チャンネル、IDを設定する

- チャンネルはファンクションボタン2〈〉、IDはファンクションボタン3〈〉を押して設定します。
- 設定方法については、20～21ページを参照してください。

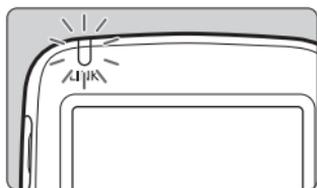
3 カメラの撮影機能を設定する

4 すべてのトランスミッターを設定する

- 手順1～3を繰り返して、すべてのトランスミッターを連動撮影モードの「マスター」または「スレーブ」に設定します。
- 連動撮影を行うストロボも、同じように設定します。
- 〈〉ボタンを押して「スレーブ」から「マスター」に変更すると、「マスター」に設定されていた他のトランスミッター（またはストロボ）が自動的に「スレーブ」になります。

5 スレーブカメラを設置する

- スレーブの〈LINK〉ランプが「緑色」に点灯していることを確認します。
- マスターカメラから約30mの範囲内にすべてのスレーブカメラを設置します。



6 撮影する

- マスターの〈LINK〉ランプが「緑色」に点灯していることを確認して撮影します。
- ➔ マスターカメラに連動して、スレーブカメラがリリースします。
- ➔ 連動撮影が行われたスレーブは〈LINK〉ランプが一瞬「オレンジ色」に点灯します。

- スレーブカメラは手動ピント合わせで撮影することをおすすめします。AFでピント合わせができないときは、そのスレーブカメラは連動しません。
- マスターカメラのリリースタイミングよりも、少し遅れてスレーブカメラがリリースします。まったく同時に撮影することはできません。
- 連動撮影時に複数のストロボを同時に発光させると、適切な露出が得られないことや、露出ムラが発生することがあります。
- [ストロボ機能設定] の [ストロボの発光] が [しない] に設定されているときは (p.50)、連動撮影はできません。
- ライブビュー状態で連動撮影を行うときは、マスターカメラのメニューの [(LV) 静音撮影] を [しない] に設定してください。[モード1] [モード2] に設定されているときは、スレーブカメラが連動しません。
- ストロボの配置条件や周囲の環境、気象条件などにより、通信可能距離が短くなる場合があります。
- 連動撮影機能は、ワイヤレスファイルトランスミッター WFTシリーズの連動撮影と同等の機能です。ただし、WFTシリーズと組み合わせて連動撮影を行うことはできません。なお、リリースタイムラグは、WFTシリーズによる連動撮影と異なります。

- ストロボまたはトランスミッターをカメラに装着せずに、連動撮影用のマスターリモコンとして使うこともできます。マスターのファンクションボタン1 [REL] を押すと、すべてのスレーブカメラがリリースします。
- 連動撮影時は、オートパワーオフまでの時間が5分になります。

3

カメラ操作による トランスミッターの機能設定

この章では、カメラのメニュー画面からトランスミッターの機能を設定する方法について説明しています。

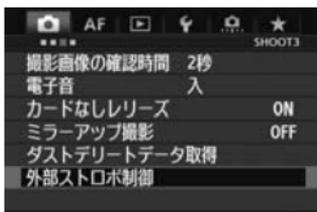
 カメラの撮影モードが全自動モード、イメージゾーンのときは、この章の操作はできません。カメラの撮影モードをP/Tv/Av/M/B（応用撮影ゾーン）にしてください。

カメラのメニュー画面からの制御

2007年以降に発売されたEOSデジタルカメラを使用すると、カメラのメニュー画面からストロボやトランスミッターの機能を設定したり、カスタム機能を設定することができます。

カメラの操作方法については、カメラの使用説明書を参照してください。

トランスミッターの機能設定

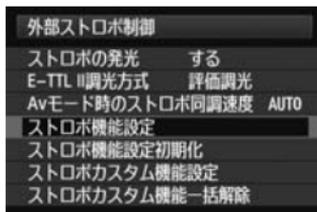


1 [外部ストロボ制御] を選ぶ

- [外部ストロボ制御] または [ストロボ制御] を選びます。

2 [ストロボ機能設定] を選ぶ

- [ストロボ機能設定] または [外部ストロボ機能設定] を選びます。
- (外部) ストロボ機能設定画面になります。



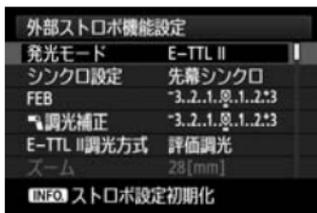
3 機能を設定する

- カメラにより設定画面が異なります。
- 項目を選び、機能を設定します。

EOS-1D Xの画面例



EOS 60Dの画面例



2007年から2011年までに発売されたカメラは、次のとおりです。
EOS-1Ds Mark III、EOS-1D Mark IV/III、EOS 5D Mark II、EOS 7D/60D/
50D/40D、EOS Kiss X5/X4/X3/X2/X50/F

【ストロボ機能設定】で設定できる内容

● 2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラ

EOS-1D Xなどのカメラと組み合わせたときは、【ストロボ機能設定】の画面で「電波通信ワイヤレス撮影」の設定を行うことができます。

● 2007年～2011年までに発売されたEOSデジタルカメラ

「電波通信ワイヤレス撮影」を行うときは、トランスミッターを操作して設定してください。

設定できる機能は次のとおりです。発光モードやワイヤレス機能の設定により、設定できる内容が異なります。

機能		参照ページ
ストロボの発光	する／しない	p.50
E-TTL II調光方式	評価調光／平均調光	
Avモード時のストロボ同調速度		
発光モード	E-TTL II（自動調光）／マニュアル発光／マルチ発光／個別グループ制御	
シンクロ設定	先幕シンクロ／ハイスピードシンクロ	
調光補正		
FEB		
ワイヤレス機能（設定）	電波通信ワイヤレス	p.51
ストロボ機能設定初期化		



- 【ストロボの発光】【E-TTL II調光方式】は、前ページの手順2または手順3で表示されます（カメラにより異なります）。
- 【Avモード時のストロボ同調速度】が表示されないときは、カメラのカスタム機能で設定することができます。

● ストロボの発光

ワイヤレスストロボ撮影を行うときは、[する] に設定します。[しない] に設定したときは、ワイヤレスストロボ撮影はできません。

● E-TTL II調光方式

通常は、標準的なストロボ露出が得られる [評価調光] に設定します。[平均調光] に設定すると、カメラの測光領域全体を平均的に測光します。状況に応じてストロボ調光補正が必要です。上級者向けの設定です。

● Avモード時のストロボ同調速度

絞り優先AE (Av) モードでワイヤレスストロボ撮影を行うときのストロボ同調速度を設定することができます。

● 発光モード

撮影目的に応じて、[E-TTL II] [マニュアル発光] [マルチ発光] [個別グループ制御] の中から、発光モードを選択することができます。

● シンクロ設定

ストロボの発光タイミング/方式を [先幕シンクロ] [ハイスピードシンクロ] から選ぶことができます。通常のワイヤレスストロボ撮影を行うときは、[先幕シンクロ] に設定します。

● 調光補正

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。設定できる補正量は1/3段ステップ±3段です。

● FEB

ストロボの光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。設定できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。

● ワイヤレス機能（設定）

電波通信ワイヤレスストロボ撮影に自動設定されます。詳しい内容については、2章を参照してください。

● ストロボ（機能）設定初期化

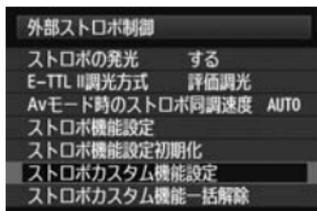
トランスミッターの設定内容を初期状態に戻すことができます。



- [発光モード] を [個別グループ制御] に設定したときは、各グループの発光モードを、[E-TTL II] [マニュアル発光] [外部調光オート] [発光しない] の中から選ぶことができます。
- トランスミッターで調光補正を設定したときは、カメラのメニュー画面で調光補正を設定することはできません。なお、同時に設定されているときは、トランスミッターの設定が優先されます。

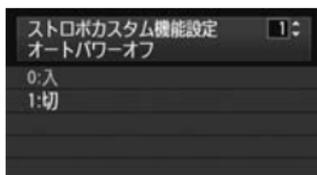
トランスミッターのカスタム機能設定

表示される内容は、使用するカメラにより異なります。C.Fn-20、22が表示されないときは、トランスミッターを操作して設定してください。カスタム機能については、56～57ページを参照してください。



1 [ストロボカスタム機能設定] を選ぶ

- [ストロボカスタム機能設定] または [外部ストロボカスタム機能設定] を選びます。
- ➔ トランスミッターのカスタム機能が設定できるようになります。



2 カスタム機能を設定する

- カスタム機能番号を選び、機能を設定します。
- カスタム機能の設定をすべて解除するときは、手順1で [ストロボカスタム機能一括解除]、または [外部ストロボカスタム機能一括解除] を選びます。

❗ 2011年までに発売されたカメラのときは、[ストロボカスタム機能一括解除] を選んでも、C.Fn-20、22の設定は解除されません。55ページのカスタム機能一括解除を行うと、すべてのカスタム機能が解除されます。

📄 パーソナル機能 (P.Fn/p.58) は、カメラのメニュー画面から設定／一括解除することはできません。トランスミッターを操作して設定してください。

4

トランスミッターの カスタマイズ

この章では、カスタム機能 (C.Fn)、パーソナル機能 (P.Fn) によるトランスミッターのカスタマイズについて説明しています。

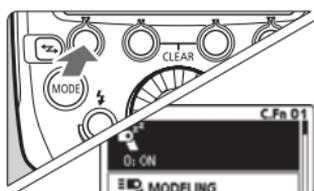


カメラの撮影モードが全自動モード、イメージゾーンのときは、この章の操作はできません。カメラの撮影モードをP/Tv/Av/M/B (応用撮影ゾーン) にしてください。

C.Fn / P.Fn: カスタム／パーソナル機能の設定方法

撮影スタイルに応じて、トランスミッターの機能を細かく変更することができます。これをカスタム機能、パーソナル機能といいます。なお、パーソナル機能は、トランスミッター特有のカスタマイズ機能です。

C.Fn: カスタム機能

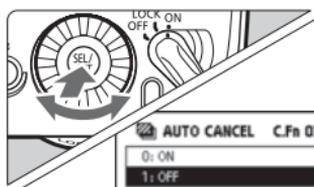


1 カスタム機能画面にする

- 画面が表示されるまで、ファンクションボタン1 < **C.Fn** > を長く押しします。
→ カスタム機能画面が表示されます。

2 設定する項目を選ぶ

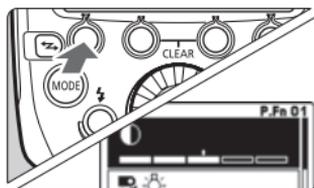
- <  > を回して設定する項目(番号)を選びます。



3 設定内容を変更する

- <  > ボタンを押します。
→ 設定項目が表示されます。
- <  > を回して希望する設定内容を選び、<  > ボタンを押します。
- ファンクションボタン4 < **↵** > を押し、撮影準備状態に戻ります。

P.Fn: パーソナル機能



1 パーソナル機能画面にする

- カスタム機能の手順1の操作を行ったあと、ファンクションボタン1 < **P.Fn** > を押しします。
→ パーソナル機能画面が表示されます。

2 機能を設定する

- カスタム機能の手順2、3と同じ操作でパーソナル機能を設定します。

カスタム／パーソナル機能一覧

番号	項目		参照ページ
カスタム機能			
C.Fn-01		オートパワーオフ	p.56
C.Fn-02	 MODELING	モデリング発光	
C.Fn-03	 AUTO CANCEL	FEB自動解除	
C.Fn-04		FEB撮影順序	
C.Fn-07	 TEST	自動調光時のテスト発光	p.57
C.Fn-13		調光補正の設定方法	
C.Fn-20		電子音	
C.Fn-22		表示パネルの照明	
パーソナル機能			
P.Fn-01		表示パネルの濃度	p.58
P.Fn-03		表示パネル照明色：マスター	
P.Fn-04		表示パネル照明色：スレーブ	

カスタム機能／パーソナル機能一括解除

カスタム機能の画面で、ファンクションボタン2 (**CLEAR**) を押して、ファンクションボタン1 (**OK**) を押すと、設定されているカスタム機能を解除することができます。また、パーソナル機能の画面で同じ操作を行うと、設定されているパーソナル機能を解除することができます。

 カメラのメニュー画面からトランスミッターのカスタム機能を設定したときに、C.Fn-20、22が表示されないときは、54ページの操作で設定してください。

 カメラのメニュー画面からトランスミッターのカスタム機能を設定／一括解除することができます (p.52)。

C.Fn: カスタム機能で変更できる内容

C.Fn-01: (オートパワーオフ)

トランスミッターを操作しないで5分放置すると、節電のため自動的に電源が切れますが、この機能が働かないようにすることができます。

0: ON (入)

1: OFF (切)

C.Fn-02: MODELING (モデリング発光)

0:  (する: 絞り込みボタン)

カメラの絞り込みボタンを押すと、モデリング発光します。

1:  (する: テスト発光ボタン)

トランスミッターのテスト発光ボタンを押すと、モデリング発光します。

2:  /  (両方のボタンで発光する)

カメラの絞り込みボタン、またはトランスミッターのテスト発光ボタンを押すと、モデリング発光します。

3: OFF (しない)

モデリング発光を禁止します。

C.Fn-03: AUTO CANCEL (FEB自動解除)

FEBで3枚撮影したあと、FEBを自動解除するかどうかを設定することができます。

0: ON (する)

1: OFF (しない)

C.Fn-04: (FEB撮影順序)

0: 補正なし、- : マイナス補正 (暗く)、+ : プラス補正 (明るく) の順序を変更することができます。

0: 0 → - → +

1: - → 0 → +

C.Fn-07:  TEST (自動調光時のテスト発光)

E-TTL II/E-TTL自動調光モードでテスト発光を行うときの発光量を変更することができます。

0: 1/32 (1/32発光)

1: 1/1 (フル発光)

C.Fn-13:  (調光補正の設定方法)

0:  (ボタン+ダイヤル)

1:  (ダイヤルで直接設定)

〈〉 ボタンを押さずに、直接 〈〉 を回して調光補正を行うことができます。

C.Fn-20:  (電子音)

スレーブの充電が完了したときに電子音を鳴らすことができます。

0: OFF (切)

1: ON (入)

C.Fn-22:  (表示パネルの照明)

ボタン、ダイヤルを操作すると、表示パネル照明が点灯します。この照明の設定を変更することができます。

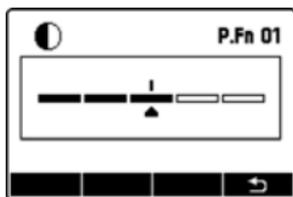
0: 12sec (12秒間照明)

1: OFF (照明しない)

2: ON (常時照明)

P.Fn: パーソナル機能で変更できる内容

P.Fn-01: (表示パネルの濃度)



表示パネルの表示濃度を5段階で調整することができます。

P.Fn-03: (表示パネル照明色：マスター)

電波通信ワイヤレスストロボ撮影、連動撮影：マスター設定時の表示パネル照明の色を選ぶことができます。

0：GREEN (緑)

1：ORANGE (オレンジ)

P.Fn-04: (表示パネル照明色：スレーブ)

連動撮影：スレーブ設定時の表示パネル照明の色を選ぶことができます。

0：ORANGE (オレンジ)

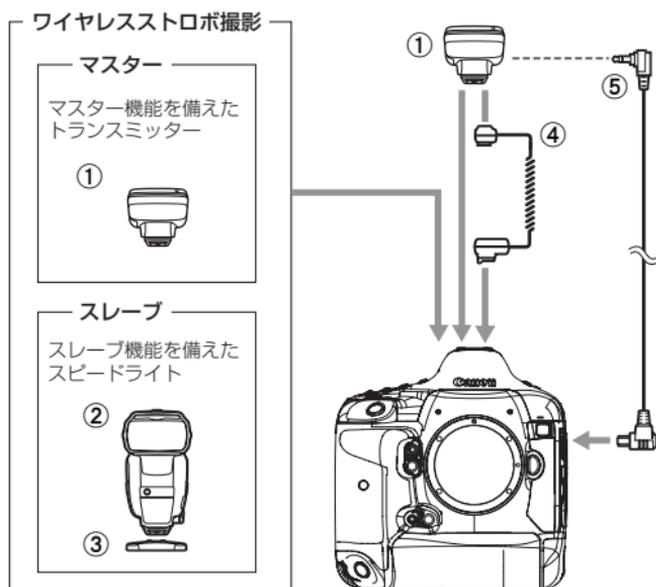
1：GREEN (緑)

5

資料

ストロボシステムや、よくある質問を掲載しています。

ST-E3-RTのシステム



① スピードライトトランスミッター ST-E3-RT

② スピードライト600EX-RT

電波通信ワイヤレス撮影対応のスレーブ機能を備えたスピードライトです。

③ ミニスタンド (600EX-RTに付属)

④ オフカメラシューコードOC-E3

ST-E3-RTをカメラから約60cmまで離して使用することができます。

⑤ レリーズケーブルSR-N3

2011年までに発売された、N3タイプのリモコン端子を備えたE-TTL II/E-TTL自動調光対応のEOSカメラとトランスミッターをこのケーブルで接続すると、スレーブからレリーズしたり (p.42)、スレーブカメラとして連動撮影ができるようになります (p.43)。

故障かな？と思ったら

「トランスミッターが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、修理受付窓口にご相談ください。

電源が入らない

- 電池が正しい向きに入っているか、確認してください (p.12)。
- 取り付け脚をアクセサリシューの奥まで入れ、ロックレバーを右方向にスライドさせて、しっかりとカメラに固定してください (p.13)。
- トランスミッターとカメラの接点部分が汚れているときは、接点を清掃してください (p.7)。
- 充電ランプは、ワイヤレス撮影 (スレーブ) の準備が完了すると点灯します。

電源が勝手に切れる

- トランスミッターのオートパワーオフ機能が働いています。シャッターボタンを半押しするか、テスト発光ボタンを押してください (p.14)。

スレーブが発光しない

- スレーブが電波通信ワイヤレスストロボ撮影に対応しているかどうか確認してください。
- スレーブを〈(P)〉〈**SLAVE**〉に設定してください (p.20)。
- マスターとスレーブの通信チャンネル、電波通信IDを同じ設定にしてください (p.20)。
- スレーブがマスターの通信範囲内にあるか、確認してください (p.16)。

スレーブが発光しないことがある／意図せずフル発光することがある

- チャンネルをスキャンして電波状態の良いチャンネルに設定してください (p.22)。
- マスターからできるだけ見通しの良い場所にスレーブを設置してください。
- スレーブ本体の正面部分をマスターに向けてください。

写真がアンダーまたはオーバーになる

- 画面内に窓ガラスなど、反射率の高いものがあるときは、FEロックを行ってください (p.30)。
- 被写体が暗い、または明るいときは、調光補正を行ってください (p.27)。
- ハイスピードシンクロのときは調光できる距離が短くなります。スレーブを被写体に近づけてください (p.29)。
- 発光グループA/B/Cの3グループで自動調光撮影を行うときは、発光グループCを主被写体に向けて発光させないでください (p.33)。
- 発光グループごとに発光モードを設定した撮影のときは、〈ETTL〉〈Ext.A〉に設定された複数の発光グループを主被写体に向けて発光させないでください (p.40)。

写真が大きくブレている

- 暗い場所で〈Av〉モードで撮影すると、自動的にスローシンクロ撮影に(シャッター速度が遅く)なります。三脚を使用するか、〈P〉または全自動モードで撮影してください。なお、[Avモード時のストロボ同調速度]で同調速度を設定することもできます (p.49)。

〈Tv〉が表示される

- シャッター速度をストロボ同調速度から1段遅くしてください(p.19)。

スレーブからのリリースができない

- 2011年までに発売された、N3タイプのリモコン端子を備えた、E-TTL II/E-TTL自動調光対応のEOSカメラを使用して、スレーブからリモートリリースを行うときや、連動撮影でスレーブに設定したときは、「リリースケーブルSR-N3」(別売)が必要です (p.42、43、60)。

主な仕様

■型式

型式.....	クリップオンタイプ・スピードライトトランスミッター
使用カメラ.....	E-TTL II/E-TTL 自動調光対応、EOS・Aタイプカメラ

■電波通信ワイヤレス機能

露出制御方式.....	E-TTL II/E-TTL自動調光、マニュアル発光、マルチ発光、外部調光オート* *発光モード〈Gr〉設定時のみ
周波数.....	2405MHz~2475MHz
変調方式.....	1次変調：OQPSK、2次変調DS-SS
通信チャンネル.....	オート、Ch.1~15
電波通信ID.....	0000~9999
スレープ制御.....	最大5グループ (A/B/C/D/E)、最大15台
通信可能距離.....	約30m *マスター~スレープ間に障害物、遮蔽物がなく、他の機器との電波干渉がない場合 *配置条件や周囲の環境、気象条件などにより、通信可能距離が短くなることがある
光量比制御.....	1：8~1：1~8：1、1/2段ステップ
調光補正.....	1/3、1/2段ステップ±3段
FEB.....	1/3、1/2段ステップ±3段（調光補正との併用可能）
FEロック.....	カメラの〈M-Fn〉ボタン、または〈FEL〉〈*〉ボタンによる
ハイスピードシンクロ.....	可能 *2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラ使用時のみ可能
マニュアル発光.....	1/1~1/128発光（1/3段ステップ）
マルチ発光.....	可能（1~500Hz）
スレープ充電確認.....	マスターの表示パネルに〈☑〉マーク点灯、スレープのAF補助光投光部点滅、充電ランプ点灯
調光確認.....	調光確認ランプ点灯
モデリング発光.....	カメラの絞り込みボタンによる
連動撮影.....	可能

■カスタマイズ機能

カスタム機能.....	8種
パーソナル機能.....	3種

■電源

本体電源	単3形アルカリ乾電池 2本 *単3形ニッケル水素電池、リチウム電池使用可能
ワイヤレス撮影可能時間 ...	連続約10時間 *単3形アルカリ乾電池使用
節電機能	5分放置で電源OFF

■大きさ・質量

大きさ	約67.4 (幅) × 61.5 (高さ) × 77.4 (奥行) mm (防塵・防滴アダプターを除く)
質量	約110g (トランスミッター本体のみ、電池別)

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

安全上のご注意

下記注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解して製品を正しく安全にお使いください。



警告

下記の注意を守らないと、死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

- 発火、発熱、液漏れ、破裂の原因となりますので次のことはしないでください。
 - ・ 本体・付属品・接続ケーブル等の接点部に金属を差し込むこと。
 - ・ 指定以外の電池や変形した電池の使用、充電、ショート、分解、変形、加熱、ハンダ付け、火中投入。
 - ・ + - を逆に入れること。新品電池と使用済電池、種類の違う電池の混用。
- 電池や付属品は、お子様の手の届かない所に置いてください。万一飲み込んだ際は、直ちに医師に相談してください。(電池の液で胃腸が冒される恐れがあります)
- 電池を廃却する時は、テープなどで絶縁してください。他の金属や電池と混じると発火、破裂の原因となります。
- 熱くなる、煙が出る、焦げ臭い等の異常時は、火傷に十分注意して速やかに電池を抜いてください。そのまま使用すると火災、火傷の原因となります。
- 車の運転者等に向けてストロボを発光しないでください。事故の原因となります。
- ストロボを目に近づけて発光しないでください。視力障害を起こす危険性があります。特に乳幼児を撮影する時は1m以上離れてください。
- ストロボ発光部を手でおおったまま発光しないでください。火傷の原因となります。
- 外部ストロボを長時間使用しない時は、電池を抜いて保管してください。機器の故障、汚損の原因となります。
- 可燃性ガスの雰囲気の中で使用しないでください。爆発、火災の原因となります。
- 落下等により機器内部が露出した際は、露出部に手を触れないでください。感電の危険があります。
- 分解、改造しないでください。内部には高電圧部があり感電の危険があります。
- カメラで太陽や強い光源を直接見しないでください。視力障害の原因となります。
- カメラは幼児の手の届かない所に置いてください。誤ってストラップを首に巻きつると、窒息することがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。火災、感電の原因となります。
- 飛行機内・病院で使用の際は、航空会社・病院の指示に従ってください。本機器が出す電磁波が計器や医療機器などに影響を与える恐れがあります。



注意

下記の注意を守らないと、けがを負う可能性及び物的損害の発生が想定されます。

- 高温状態の車中や熱いものの近くに放置しないでください。製品自体が高温になり、触ると火傷の原因になることがあります。
- 製品を布でおおったり、包んだりして使用しないでください。熱がこもりケースが変化し、火災の原因となることがあります。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を製品の洗浄に使用しないでください。火災や健康障害の原因となることがあります。
- カメラを三脚につけたまま移動しないでください。けがや事故の原因となることがあります。また、三脚はカメラ・レンズに対して十分に強度のあるものをご使用ください。

- レンズやレンズをつけたカメラを、レンズキャップを外したまま日光の下に放置しないでください。太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
- 水に落としたり、内部に水または金属などの異物が入った際は、速やかに電池を抜いてください。火災、感電の原因となることがあります。

故障・不具合・破損の際は、お買い上げ店または弊社修理受付窓口にご連絡ください。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品のアフターサービス期間は、製品製造打切り後5年間です。なお、弊社の判断により、アフターサービスとして同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

索引

英数字

4秒/6秒/16秒タイマー	10
Avモード時のストロボ同調	
速度	50
Aタイプカメラ	2
C.Fn	54, 56
E-TTL II/E-TTL自動調光	16
E-TTL II (調光方式)	50
Ext.A (外部調光オート)	39
FEB	28
FEロック	30
ISO感度	30
LINK	6, 23, 25
LOCK	14
M (マニュアル露出)	34
MULTI	35
P.Fn	54, 58

あ

アクセサリシュー	13
一括解除	55
オートパワーオフ	14, 56

か

カスタム機能 (C.Fn)	54, 56
外部調光オート	39
機能設定	47
グループ制御	33
光量比	
2灯 (A:B)	31
3灯 (A:B C)	32

さ

最大連続発光回数	37
撮影可能時間	12
シャッター速度	19
充電ランプ	6, 14, 25, 61
初期化	40, 49

シンクロ設定	50
スキャン	22
ストロボ機能設定	49
ストロボ作動範囲	16
ストロボ制御	48
ストロボ同調速度	50
ストロボ配置	16
スレーブ設定	20
全自動ワイヤレスストロボ撮影	24

た

調光確認ランプ	6
調光補正	27
調光レベル	8, 28
通信チャンネル	20, 21, 22
テスト発光	13, 25, 40
電子音	57
電池	12
電波通信ID	20, 21

は

ハイスピードシンクロ	29
発光グループ	
.....	31, 32, 34, 35, 38
発光周波数	35
発光モード	8, 9, 49, 50
発光量	34
パーソナル機能 (P.Fn)	54, 58
表示パネル	8
照明	14, 57
照明色	58
濃度	58

ま

マスター設定	20
マニュアル発光	34
マルチ発光	35
メモリー機能	23
モデリング発光	41

ら

リモートリリース	42
連動撮影	9, 43
ロック機能	14

わ

ワイヤレスストロボ撮影	16
グループ発光	38
全自動1灯	24
全自動2灯 (A:B)	31
全自動3灯 (A:B C)	32
マニュアル発光	34
ワイヤレス設定	20
ワイヤレス多灯撮影	17, 31, 34



キヤノン株式会社

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター（全国共通番号）

050-555-90002

受付時間：平日 9：00～20：00

土・日・祝日 10：00～17：00

（1月1日～1月3日は休ませていただきます）

- ※ おかけ間違いのないようご注意ください。
- ※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556をご利用ください。
- ※ IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。
- ※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

別紙の修理受付窓口でご確認ください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

canon.jp/eos-d

この使用説明書に記載しているカメラ、アクセサリは、2012年1月時点のものです。それ以降に発売されたカメラ、アクセサリとの組み合わせにつきましては、上記のお客様相談センターにお問い合わせください。